

フルコンタクトルール

服装

男子は空手衣の下には何も着用しない。

女子は白色のTシャツかラッシュガードを着用することとする。

防具

ヘッドガード

一般上級の部＝なし

それ以外＝フルフェイスヘッドガード・ヘッドギヤ（貸出有）

拳

一般部＝なし

それ以外＝拳サポーター（貸出有）

レグサポーター

一般上級＝なし

それ以外＝脛及び足の甲を防護する布製サポーター（白）を着用（貸出無し）

男子は全員ファールカップを着用する。（貸出無し）

女子は胸サポーター着用可（貸出無し）

有効技

頭部等反則部位以外への手による攻撃を認める

頭部への足による攻撃を認める。

勝敗

- 1, 一本勝ち
- 2, 技有り2本による合わせ一本勝ち
- 3, 判定勝ち（体重判定を含む）
- 4, 相手選手の失格、棄権による勝ち

試合時間

一般上級＝本戦 3 分 — 延長 2 分 — 体重判定 — 再延長 1 分 30 秒

高校生初級以上＝本戦 2 分 — 延長 1 分 30 秒 — 体重判定 — 再延長 1 分

中学生＝本戦 2 分 — 延長 1 分 — 体重判定 — 再延長 1 分

小学生＝本戦 1 分 30 秒 — 延長 1 分 — 体重判定 — 再延長 30 秒

園児＝本戦 1 分 — 延長 45 秒 — 体重判定 — 再延長 30 秒

(体重判定は下を参照)

いずれも再延長で勝敗が決しない場合は体重が少しでも軽い方が勝者

もしその場合も体重が同じなら再々延長高校生以上 1 分、中学生以下 30 秒を行い判定はマスト判定とする。

※試合時間は大会により変更になる場合がありますので最終確認は大会パンフレットをご覧ください。

審判

審判は主審 1 人、副審 2 人または 4 人で行う

特別ルールにより副審の人数が変わる場合がある

一本勝ち

反則箇所を除く部位への突き・蹴り・肘打ち等の攻撃で相手選手に片足以上をつけさせるか戦意を喪失させたときは一本勝ちとする。

技有り

反則箇所を除く部分へ、突き・蹴り・肘打ち等を決め、相手選手が一時的に効いた素振りをしたとき、または、倒れはしないが大きくバランスを崩したときは技有りとする。

少年部（頭部への威力ある蹴りが当たった場合や防御のまったく出来ていない状態で下段、中段への蹴りが強く当たった場合に技有りとなる場合があります。）

技有りは、2 つで一本勝ちとする。

判定

一本勝ちで決まらない場合は判定で決定する。

判定は主審 1 名、副審 4 名（2 名の場合もあり）のうち、過半数以上の支持を有効とする。相手選手の失格、棄権による勝ち。

延長戦

判定は審判過半数以上の支持がない場合は引き分けとし延長戦を行う。

延長でも引き分けの場合は再延長及び体重判定とするが大会により決定する。

試合内容により審判長指示により特別延長を行う場合もある。

体重判定

小学3年以下は1.5 kg以上、小学4年以上は2 kg以上、中学生以上は3 kg以上、一般上級は5 kg以上の差がある場合に軽い方が勝者となる。

反則

武道塾では試合の勝敗を反則などで決することをなるべく無くすようにルールは緩く適用します。

一生懸命に稽古して試合に臨むのに軽度な反則で勝敗を決することは選手同士勝っても負けても望むところではないと思います。例えばフルフェイスヘッドガードを被っている場合少々顔面への突きが当たってもダメージも無く試合に影響はありません。また同じように特に少年部は前に前に出る組手となり頭がぶつかる場合もありますが相手に大きなダメージを与えるものでもありません。

武道塾は明らかに危険な反則以外はなるべくルールを排除していこうという考えです。

その上で反則は以下の通りです。

- 1, 後頭部及び脊髄への攻撃
- 2, 手による頭部への攻撃
- 3, 金的・頭突き・目突き
- 4, 倒れた相手へのすべての攻撃
- 5, 掴む・投げでの攻撃
- 6, 足による膝関節への打撃
- 7, 故意に場外線を両足が完全に越えた場合
- 8, 主審の「止め」が掛かった後の攻撃
- 9, 正しく礼をしない場合
- 10, 審判がとくに反則とみなした場合

反則には、悪質な場合を除き

- 1度目で「注意1」
- 2度目が「注意2」
- 3度目が「減点1」となり、
- 4度目が「減点2」で失格となる。

失格

- 1, 減点2となった場合=失格
- 2, 試合中、審判員の指示に従わない場合
- 3, 粗暴な振る舞い、悪質な反則とみなされた場合
- 4, 出場時刻に遅れたり、出場しない場合
- 5, 主催者が定めた服装、防具の規定に反している場合
- 6, 著しく礼儀礼節を欠く態度とみなされた場合

棄権

- 1, 戦意喪失（泣く等）本人の意思または怪我による試合続行不可能となった場合。

異議申し立て

選手やセコンドによる異議申し立ては一切認めない。

審判はいかなる時も公明正大に審判を行いそこで下す最終判断は審判長が全責任を負います。

但し審判も人間であり間違える場合もあると思いますので先に謝っておきます。

その上で選手にとって不満なこともあるかも知れませんが武道精神を学ぶ武道家らしく潔く従って頂ければ幸いです。